中 河 原 の 板 碑

御嶽神社隣接の公園内にある中河原の地名由来碑に記載されている「中河原からは応安七年（1374）などの年紀が刻まれた板碑が出土」の板碑の写真や拓本の資料を府中市郷土の森博物館からご提供いただきましたのでご紹介します。

目次

１　中河原の地名由来……1
２　中河原出土の板碑……2
（１）板碑……2
（２）中河原出土の板碑……3
ア　板碑出土推定地……3
イ　板碑の写真、拓本……4
３　中河原の歴史年表……7

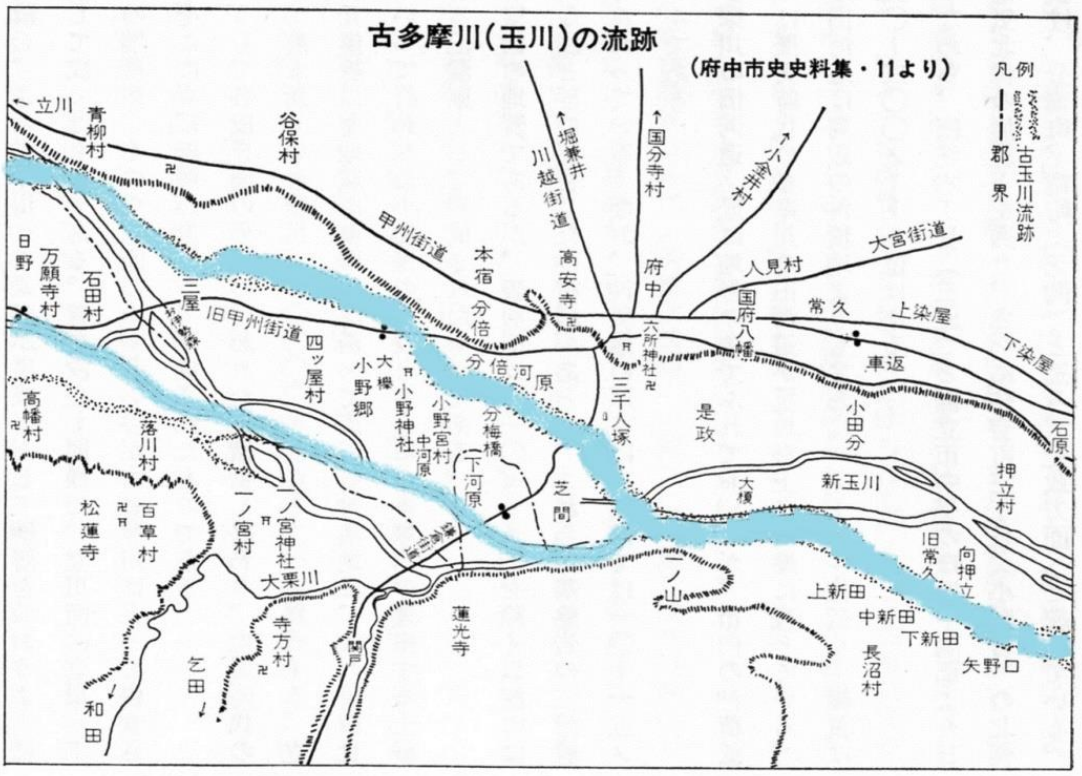
1　中河原の地名由来

中河原（なかがわら）は、現在の住吉町一丁目の一部（鎌倉街道沿い）に集落の中心があった村落です。幕末の地誌「新編武蔵風土記稿」には、「家数三十四軒所々に散在す」とあります。

中河原は、もと大道（大堂とも）と呼ばれていましたが、天文年間（1532-55）の多摩川の洪水により、石河原になってしまったために、それ以降は中河原と称したといわれています。古く、多摩川ははるか北側を流れており、中河原は多摩川の南側に位置していたようです。

地名の起こりは、集落が古多摩川（古玉川）と浅川との間の河原にあったことによるようです。中河原からは応安七年（1374）などの年紀が刻まれた板碑が出土しており、集落の古さを物語っています。（府中市設置の地名由来碑から）

※1660 年頃に現在の多摩川の流路に固定されるまでは、現多摩川に浅川が流れており、古多摩川は立川段丘に沿って日野橋付近～日本電気北側～分梅町～是政付近で浅川と合流していたようです。



２　中河原出土の板碑

府中市が設置した中河原の地名由来碑の「中河原からは応安七年（1374）などの年紀が刻まれた板碑が出土しており、集落の古さを物語っています。」についてご紹介します。

（１）板碑

板碑（いたび）とは、五輪塔などと同じように石塔のひとつで、中世に多く使われていた石製の供養塔のことをいいます。板碑の分布地域はいわゆる鎌倉武士の本貫地（所領とした土地で、名字の由来地）であったと考えられ、当時の武士の信仰に強く関連していたものと思われます。種類としては、供養の内容から追善供養（生きているものが、亡くなった人のために功徳を積み、その功徳を亡き霊に振り向け冥福を願うこと。順修供養ともいいます）、逆修供養（生きている間に自分が仏事を行って自分自身の死後の功徳とする供養のこと）とに区別することができます。

この板碑には、阿弥陀如来の種子（しゅじ＝梵字で表した主尊）を刻んだものが多く、当時仏教各派を超えて、阿弥陀信仰が盛んであったと思われます。市内にも鎌倉・室町時代の仏教信仰の広がりを示す文化財が残っています。中河原地域で出土した板碑にも阿弥陀三尊（阿弥陀如来、勢至菩薩、観音菩薩）などの種子が刻まれています。

サ　観世音菩薩　　サク　勢至菩薩　　キリーク　阿弥陀如来　　カ　地蔵菩薩

（２）中河原出土の板碑

中河原から出土した板碑は３枚あり、紀年銘が室町時代の応安７年（1374 年）、応永 24 年（1417 年）、永享 10 年（1438 年）となっています。

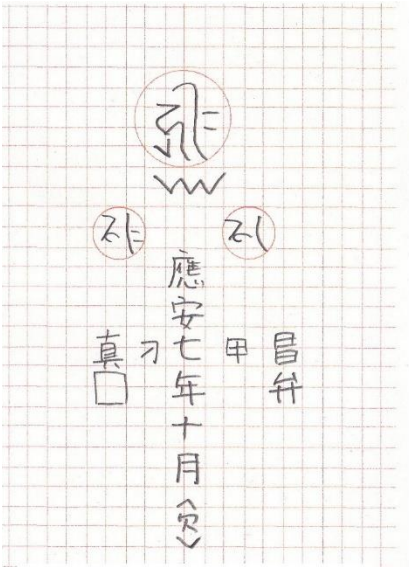
これらの板碑は、年代不詳ですが、「沢井氏の柿の木の根元から掘り出された。」との文献があり、郷土の森博物館には「沢井壬家採集」と記録されています。

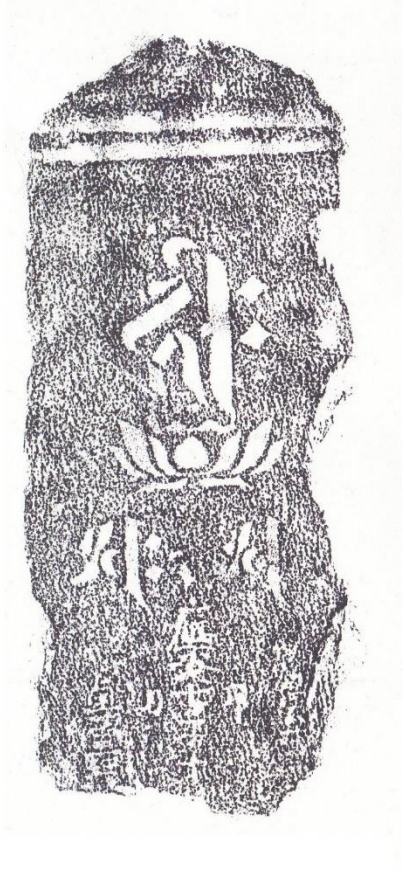
ア　板碑出土推定地

中河原駅前の鎌倉街道拡幅前の資料などによれば、現在の鎌倉街道中河原駅北沿いの横断歩道橋下ライフ側車線辺りと推定されます。

イ　板碑の写真、拓本

（ア）応安７年（１３７４年）の板碑





銘文　應安七甲刁年十月×／昌弁真□

紀年銘	応安７年１０月　　日
主　尊	阿弥陀三尊種子
西　暦	１３７４年
高　さ	48.5cm
幅	20.5cm

府中市郷土の森博物館所蔵・提供

（イ）応永２４年（１４１７年）の板碑

（ウ）永享１０年（１４３８年）の板碑

※このような、子どもを供養する『地蔵一尊種子に「妙秀童子」』の板碑は、大変珍しいとされています。

3　中河原の歴史年表

中河原歴史年表　　2019/11/1改訂

時代	西暦	和暦	記事
平安後期			中世において、日野地域は摂関家領の船木田荘と、土淵郷、得恒郷、吉冨郷の３つの国衙領から成っていた。吉冨郷は関戸を中心とし、関戸・一の宮・連光寺・増井（百草）・中河原・鹿子嶋の六カ村で構成されていたと考えられている。（「武州多西吉冨 真慈悲寺推定地出土の中世瓦」 日野市郷土資料館）
室町	1374	応安7年	この年の紀年銘の板碑が中河原村村域から出土（府中市中河原地名由来碑）
	1415	応永22年	鎌倉八幡宮の記録に料所（所領）吉冨郷内中河原村として記述（社務職次第）
	1417	応永24年	この年の紀年銘の板碑が中河原村村域から出土
	1438	永享10年	この年の紀年銘の板碑が中河原村村域から出土
	1461	寛正2年	鎌倉八幡宮の記録に社領関戸郷六カ村の一つとして中河原村の記述（香蔵院珎祐記録）
安土桃山	1585	天正13年	この年の新田開発申出書の関戸文書に関戸郷中河原村の記述
	1596	文禄5年	多摩川大洪水で、流域の村々が押し流された。この後多摩川の治水工事本格化。（続府中の風土誌）
江戸	1660	万治3年	多摩川の治水工事の結果、現在の流路・河床にほぼ固定される。（続府中の風土誌）
	1804	享和4年	新編武蔵風土記稿に、日野領中河原村として民家３４戸の記述
	1827	文政10年	幕府が文政の改革で実施した村方の治安維持組織である組合村において、中河原村は日野宿組合村に属した。（芝崎、福島、中神、豊田、高幡、関戸など、日野宿外４３カ村で構成）※この時の中河原村戸数は３６戸。
明治	1868	明治元年	中河原村など多摩郡幕府領が韮山県となる。
	1869	明治2年	本宿村が品川県となる。
	1871	明治4年	品川県が廃止。中河原村を含む後の北多摩郡と西多摩郡、南多摩郡の一部（現八王子市北部）が入間県となる。
	1872	明治5年	入間県のうち中河原村を含む現府中市域が神奈川県に移管。
	1877	明治10年	明治10年1月1日調戸籍人員によると、中河原村の人員は179人。
	1878	明治11年	郡区町村編制法の施行により、神奈川県多摩郡のうち中河原村を含む1町131村の区域をもって北多摩郡が発足。同時に、神奈川県西多摩郡、南多摩郡、東京府東多摩郡が発足。
	1889	明治22年	3月31日 － 下記の各村が合併。
			府中駅（単独町制。現・府中市）
			西府村 ← 本宿村、中河原村、四ッ谷村（現・府中市）
			多磨村 ← 下染屋村、押立村、人見村、是政村、上染屋村、常久村、小田分村、車返村（現・府中市）
	1893	明治26年	4月1日三多摩が東京府の管轄となる。
			6月19日府中駅が府中町に改称。
大正	1925	大正14年	玉南電気鉄道（府中～東八王子）中河原駅開業
昭和	1926	昭和元年	玉南電気鉄道が京王電気軌道に吸収合併（新宿追分～東八王子開通）※直通運転は昭和２年開始
	1930	昭和5年	この年の旧中河原村区域の世帯数４８世帯
	1937	昭和12年	関戸橋開通。中河原（関戸）の渡し廃止。
	1954	昭和29年	府中町・多磨村・西府村が合併して府中市が発足（この当時の中河原は145世帯826人）
	1955	昭和30年	南多摩郡多磨村大字連光寺の「下河原」（府中市広報では「下川原」）「中島の一部」を府中市に編入
	1965	昭和40年	府中市町名地番改正により旧中河原村を中心に住吉町となる。
	1971	昭和46年	関戸橋新橋開通
	1977	昭和52年	都道主要地方道18号線（新府中街道中河原～本宿交差点、新鎌倉街道中河原～関戸橋）開通
平成	2016	平成28年	関戸橋旧橋架け替え工事開始
令和	2019	令和元年	関戸橋旧橋取り壊しに伴い、欄干と橋名板を中河原公園入口に移設、保存。

編集・発行　2019年11月
中河原都市開発株式会社
東京都住吉町一丁目84番地の1
電　話　042-351-4611
ＦＡＸ　042-351-4612

E-mail　ntk@apricot.ocn.ne.jp
URL　http://nakagawara-tokyo.sakura.ne.jp/
TWITTER　@toshikaihatsu